



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 27 No.2375

■2011～2012年度RIテーマ：

こころの中を見つめよう、
博愛を広げるために

2011～2012年度RI会長 カルヤン・バネルジー



新日地域交流施設
「和が舎」

画/百瀬達夫

■2011～2012年度士別RCテーマ：

人と人を思いやる
心をもって前進しよう

■例会場/士別グランドホテル

■例会日/毎週月曜日 12:10～13:10

■事務所/士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234

■会長/渡辺正一 ■副会長/藤吉敏博

■幹事/伊藤優市

今日のプログラム 第2457回例会 2012年2月27日(月)…〈夜間例会〉

■ 2月20日の記録 ■

- 司会 谷 温恵 副会場監督
- 斉唱 奉仕の理想
- 本日の出席 会員51名中 出席者43名 出席率84.31% 修正88.24%
- 本日の欠席 今井 裕、黒田康敬、近藤峯世、高山 稔、山本 榮、汐川泰晴、
興水広志、坂野虎溪
- メイクアップ
- ビジター
- ゲスト 士別翔雲高校校長 前田 豊氏
- ニコニコBOX

累計257,000円

例 会 予 定

■3月の予定……………《識字率向上月間》

- 3月5日(月)/例会、理事会
- 3月12日(月)/例会
- 3月19日(月)/例会
- 3月26日(月)/夜間例会

■4月の予定……………《ロータリー雑誌月間》

- 4月2日(月)/例会・理事会
- 4月9日(月)/例会
- 4月16日(月)/例会
- 4月23日(月)/夜間例会
- 4月30日(月)/休会(法定休日：昭和の日)

■会務報告……………渡辺正一会長

●忙しい中ご苦勞様です。本日は北海道翔雲高校校長 前田 豊様が、公務多忙の中当クラブで学校教育の在り方についてお話をして下さいますことは、会員一同心から感謝を申し上げる次第であります。時間の許す限り宜しく願い申し上げます。商売柄申し上げたいことは円高が続き、今は78円前後で円安が推移しておりますが、我慢の灯油も卸が急騰し、世界経済の天気予報は雨、日本は曇りです。

■幹事報告……………伊藤優市幹事

- 2月27日夜間例会ですが会場を変更しまして、レストラン ミュー様で開催致します。先日の例会で出欠席確認の案内を配布致しました。まだ提出されていない方は、伊藤幹事までお渡し下さい。又、準備の都合が御座いますので、最終締め切り2月22日(木)までご連絡下さい。宜しく願い致します。
- 2012～2013年度ガバナー補佐が決まりました。名寄ロータリークラブ、藪中重和氏です。また、ガバナー公式訪問の日程も8月6日(月)ということで、ガバナー事務所から連絡がありましたので、宜しく願い致します。
- 3月のロータリーレートは1ドル78円と本部より連絡がありました。

■次年度報告……………泉谷 勇次年度幹事

- 本日例会終了後、当ホテル2階におきまして第1回目の理事会を開催致しますので、出席該当者の方は宜しく願い申し上げます。

■委員会報告

- プログラム委員会……………山本俊一委員長
本日のゲスト卓話、士別翔雲高校校長の前田 豊様で御座います。旭川生まれで、遠軽高校、旭川東高校を経て根室西高校から昨年士別に赴任されて現在に至っております。宜しく願い致します。

■卓 話……………前田 豊校長

私、振り出しは遠軽高校で、その後旭川東高校に永く居り、その後教頭で伊達緑ヶ丘高校、札幌新栄高校、また旭川東高校に行きまして、その後根



室西高校に2年間校長でお世話になり、昨年赴任をして来ました。士別翔雲高校に来て一番印象に残っているのは、生徒が純朴であるというのが一番です。そして地域に支えられている学校である

ということが、非常に強く感じる高校とっております。皆様お手元に2枚綴りの資料があるかと思いますが、最初にカラーの北海道士別翔雲高等学校というのをご覧下さい。そこに青字で多目的実現校と出ております。どういうことかと言いますと、本校は平成19年に共に伝統のあります士別高校と士別商業高校が統合されまして、平成19年に士別翔雲高校と名前を変えまして、今年で5年目になります。学校側が統合されて、普通科と商業科の学校が統合されるということで、いろいろな問題点、課題等があり、いったい本校をどういうふうにするんだと、どういう学校にするんだということで、平成21年に将来像検討委員会という検討会が校内に出来まして、そこでいろいろな生徒が入ってくる、多様化した生徒が入ってくるのだからそれに対応して進路の実現をして行かなければならない、そこで出来た名称が多目的実現校という言葉なんです。これが今学校が目指している学校像です。これをキャッチフレーズにしています。まず学校の様子をきちんと市民の方、特に小学生や中学生に解りやすく説明しなければならないということで、このリーフレットは小学生でも解るように作成しております。本校の学校目標というのは、3つありまして、1つは知・徳・体のバランスの取れた生徒を育成する。2つ目に未来を力強く切り開くたくましい生徒を育成する。3つ目は人を思いやり、郷土や自然を大切に心豊かな生徒を育てる。リーフレットに本校の校章が出ておりますが、この校章というのが学校教育目標を意識して作られています。士別の木は「ななかまど」です。そのななかまどをベースにした校章なんです。ななかまどというのは郷土や自然を大切にすることによって繋がっていきます。真中に丸く3つあります。何を意味しているかという、知・徳・体なんです。知・徳・

体のバランスの取れた生徒を育成しようということで真中が3つになっています。実際の校章は翔雲の翔が入っています。後背の部分は翼のようなものが付いていると思います。これは一人一人がたくましく羽ばたいていてもらいたいということを意としております。この校章につきましても、学校の教育目標を意識してデザインしているのご理解して頂ければと思います。

裏をご覧ください。学校説明会等で中学生等に説明する際に使っているものです。翔雲高校の門に普通科とビジネス科があります。先ほどいろいろな生徒が入ってくるとお話ししました。資格を取りたい、部活を頑張りたい、行事に情熱的に取り組みたい、国公立大学へ行きたい、良い仲間を作りたい、いろいろな目的で入ってくる生徒がいます。それになんとか応えていこうということで、生徒指導と学習指導というのは、これはよく車の両輪に例えられます。学習指導、成績が悪くなったら生活が乱れる、生活が乱れば学習成績が下がる。そこをまずしっかりやって、進路指導をしていこうということで、特に風船に例えていて、その中に文字を入れてありますが、例えば翔雲高校ってどんな学校？、いじめのない学校。いじめのないというのは、年に2回いじめの実態調査をしております。そういう中であった場合にはき然な態度で取り組んでおりますし、なんとか未然に防止したいということで、今年度、皆さんあまり馴染みがないかもしれませんが、QUテストというテストを実施しております。学級の満足度テストなんです。自分はその学級に満足しているか、していないかがテストでわかるんです。中にはいじめを受けている。学校に行きたくないという生徒も、実際にそういうテストで発見することが出来ますので、生徒の面談とか、保護者との面談にもそういったものを活用しております。就職率100%を目指そうと、これにつきましては、土別の各企業さんのお力添えによりまして、現在のところ本校今年の3年生163名が卒業します。そのうち32名が就職希望で、30名が決定しております。残り2人というところまで来ました。率にしますと93.75%決定しているという状況です。部活動も盛んで本校80%の生徒が部活動に加入をしています。ご存知のとおりウエイトリフティング部が昨年全道優勝をし

して、インターハイ及び国体の方にも出場しております。国体では2名が入賞しております。3月には選抜大会で全国大会に行くということで、ウエイトリフティング部の他にスキー部でも1名全国大会に行っておりますし、新聞局は3年連続全国大会、そのほか部では無いですが、トランポリンで2名の者が全国大会にと非常に活発です。ただ、やはり大切なのは部活動を一生懸命にやっていることが進路の実現に繋がっていかなければ何も意味がありませんので、今なんとか部活動がこれだけ盛んなのだから、それを勉強や進路の実現に繋げていけないかと取り組んでいます。それと北大の合格。北大だけが大学ではないんですが、一つの目標ということでこのように掲げさせてもらっております。2年連続北大に現役で1名ずつ入学をしていたんですが、今年は若干厳しいような状況かと思っております。ただ来年はかなり期待が持てるかなという状況になっております。あと左側に伝統的な生徒会活動。これについては土別高校、土別商業高校のそれぞれの良いところを取り入れていろんな行事などをやっております。特に体育祭は雲隊制ということで縦割りの非常に素晴らしい体育祭を1年生から3年生までが一つの雲隊を結成しまして、そこでやっており、保護者の方もかなり多く観戦に来て応援をしております。

その他高大連携と挙げておりますが、旭川大学と千歳科学技術大学と連携を取っております。旭川大学との連携につきましては、特に本校、総合ビジネス科が2年生の時にこれを皆さんに大変お世話になっております商店街マップというのを作成しております。3年生で商品開発を行っております。昨年度がヤーコン入りのチュロス、今年度がカボプリロールというものをもり屋さんの協力を得ながら作っているということで、そのような連携をしております。また千歳科学技術大学につきましては、イーランニングと言いまして、パソコンで自分で、例えば学力が低ければ小学校や中学校の問題を解くことができる。或いは発展的な学習をしたい者は大学の講義なんかのレベルを聞くことができる。というような取り組みも総合ビジネス科の方ではやっております。今は普通科の方でもうまく取り入れられないかと検討課題にはし

ているところです。ITや会計の資格取得ということで、総合ビジネス科の生徒に限らず、普通科の生徒の中でも各種の資格を取っている、特に電卓・ワープロ・簿記などの資格取得に励んでおります。前後しますけども、左の上に校訓一步前へというのが出ておりますが、だいたい校訓と言いますと、単語を組み合わせた難しい言葉が多いんですが、出来る限り解りやすく、常に意識出来るようにということで、一步前へという校訓が出来ています。今まさに不透明な時代な訳ですが、そのような中で自己を見失わずにたくましく生きていく為には、他の真似をするということではなくて追随するのではなく、自ら一步前に踏み出す勇氣とそれが出来る力を備えなければならない、というようなことで校訓が出来ております。

こういつて資料を作りながら中学生等にも説明しております。昨年は保護者と教職員向けに一度学校説明会をさせて頂きまして、あと2回は中学生を対象に学校に来ていただいて体験入学をしております。そういう中で実際に高校の体験をしてもらおうということで行っております。

もう1枚のほうのプリントをご覧ください。この資料につきましましては昨年最初の職員会議で先生方をお願いをした内容になります。特に主だったものを話をしていきたいと思っております。私は教員になった時から教育理念としましてそこに挙げた通り、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指し、興味・関心・意欲を引き出し、一人ひとりの能力を開花させる営みである。そのために、生徒が主体的に学び、生き生きと活動できる学校づくりを推進する、という考えを持っておりました。たまたま本校に着任しまして、本校の学校教育目標も一番がこの知・徳・体のとれた生徒の育成ということだったのですね。全く私の考えに合っている学校であったということで、いずれは進学しましても社会に出ます。社会で通用する社会に貢献できる生徒を是非作っていきたくて考えております。よく文武両道という言葉がありますけども、是非文武両道を目指した学校作りをしたいと、そして2番目の学校経営方針につきましましては、ここに記載されている通りですが、先生方一人一人というのは、本当に素晴らしい能力を持っているんですけども、教師集団の一番の苦手な部分は何かと

いうと組織化ということなんです。一人一人がみんなそれぞれ動けるものですから、なかなか協働体制というのが確立しづらい、いかに組織化を進めて先生方の力をより発揮させるかというのか管理職の大きな役割になっているのかなと思っております。それと(3)と(4)は連動する部分なんです。本校まだ出来て5年目で学校の様子というのがまだ市民の方に十分に伝わってはいないのではないかとということで、きちんと情報発信をどんどんしていかなければならない、外に開かれた学校にしていかなければならない。そういう中で信頼する学校作りをしていかなければならない訳で、昨年の4月から市内の新聞販売所の協力によりまして全家庭に翔雲だよりというものを毎月発行して配布させていただいております。出来るだけ新しい情報、タイムリーな情報を各家庭にお届けしたいことと、和寒、剣淵、風連につきましましては中学校にも配布致しまして、中学生にも見て頂いているということで、積極的な情報公開、情報を発信しております。また、学校のホームページにも出来るだけ定期的に更新をしております。本校のホームページを見て頂きましたら先ほど言ったカボクリロールですとか、いろんな生徒の活動状況等がすぐに解かるようになっております。具体的な指導上の重点事項ということで、昨年先生方に強くお願いしたのは何かということ、教育活動はいろいろあるんですが、やはり授業が学校生活の全ての基本なんです。授業というのはもちろん学習中になりますけど、授業の中で生活指導も出来ますし、進路指導も出来るし、心の教育も出来ます。

そのような中で何を先生方をお願いしたかと言うと、チャイムが鳴ってから職員室を出るようだったら教員として失格である。チャイムが鳴ったらすぐに授業を始めて下さいということを先生方をお願いをしています。生徒に遅刻をするなど言っていて先生方が授業に入るのが遅れたら遅刻ですよ。生徒というのは実は先生方の動きを本当によく見えています。遅れて来る先生であればずっと廊下等でたむろして、なかなか教室に入って授業の準備をしない。ところがすぐにチャイムが鳴って授業をする先生であれば、早く教室に入って準備をしています。

.....〈次週に続く〉

授業できちんとかういうことをしていれば生徒は自然に育っていくだろうと思っておりますので、先生方に非常に強くお願いをしましてだぶ定着はしてきております。これが学習指導に強調していた部分です。生徒指導につきましては、日常生活が全て生徒指導の対象と考えておりますので、いずれは社会を構成していく仲間なんですね、生徒も。そういった視点で是非傾斜のない指導をお願いしたいということで、生徒指導につきまして、そのまま面接試験にいける服装だとか髪型が基本ですよ、これから就職試験だ、大学の推薦の面接だとその時になって急に服装をきちんとして髪型を整えたり、だいたい面接官というのは人生経験が豊富な方で、そういうのはすぐに見抜くんですよ。だから普段からきちんとしていけば特別なことをしなくても大丈夫であろうということで、そういった点も先生方をお願いをしています。学習指導と生活指導というのは車の両輪に例えられている部分ですので、この点については先生方に強くお願いをしています。進路指導については、入学させた以上はきちんと卒業させて進路を実現させるというのが高校に与えられた使命ですので、3年間をきちんと見通した系統的な指導をしてもらいたいと、特に最近文科省から言われているのは、キャリア教育ということなんですね。キャリア教育というと職業観や勤労観を育成するとか或いはインターンシップをすればそれでいいんじゃないかと捉えがちですが、簡単に言いましたら生き方教育なんですね。就職に限らずどのような人生を送っていくのかという生き方教育のことをキャリア教育という言葉で言っているんです。そういったものを高校の中できちんと身につけさせていかなければならないと思っております。今の子ども達を見ていて感じるのは、みなさんもそうかもしれませんが1つはコミュニケーション能力にちょっと欠けている部分があります。中々自分の考えを表現しないんですね。特に男子の生徒なんですが、意思表示をしない。そうするとコミュニケーションの第一歩とは何かというと挨拶なんですね。挨拶は心の扉を開く鍵などと言っていますが、まずはきちんと挨拶出来て人の話を聞く、そして自分で人の聞いた話を頭の中で考えて自分の意見を言う。そういった訓練が当然必要かと思っております。

最後に健康・安全指導と出ていますが、環境美化はもちろんなんですが、自分の体は自分で管理できるといった能力を生徒には身に付けさせたいと思っております。尚②に精神的に不安定な生徒等への対応のために、教育相談体制及び特別支援体制の確立を図る。これはおそらく皆さんかたもあまりピンとこないかもしれませんが、今非常に心の病を抱えている生徒が増えてきております。教育体制とっているのはPの方の協力を得まして現在名寄市立大学から診療心理士、スクールカウンセラーを呼びましてそこで悩みを抱えている生徒、保護者に対してもカウンセリング等を行っております。特別支援体制というのは最近特別支援学校というのを聞いたことがあるかと思いますが、例えばLD学習障害、ADHD対欠陥多動症、高機能障害アスペルガーなど、そういった子達が普通の学校の中に6人が潜在的にいると言われております。ただそれが出るか出ないか、昔3、40年前はおっちょこちょいだなあ、何言っても忘れるなあと言われた子はおそらくそういったものを持っていた子なんです。今はそういった名称が付けられております。そういった生徒にも対応していかなければならないということで、鷹栖の養護学校の方からパートナーティーチャーとっているんですが、専門家に来て頂いてそこでケース会議でどうこう開いている状況です。そうやって多様化する生徒に対して対応していこうとしております。あと太字で職務は厳しく、人間関係は温かくをモットーに、お互い切磋琢磨してより良い学校づくりに努めましょう。あとは良く言われる報・連・相の徹底、情報の共有化。教員と言うのは過干渉・過保護もダメです。放任もダメです。そのバランスが大事な点で、なんらかの仕掛けが必要かと思っております。下に罫線で囲ったのが最近よく使われる言葉で、平凡な教師は言うて聞かせる。よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。要するに学ぶ意欲、自ら学ぶ意欲をどう持たせるかというのが大きなポイントになっております。その下に山本五十六の言葉を挙げておきました。私も若い時なかなか生徒を褒める事が出来なくてどうしても人間って人の悪いところをばかり目がいつてしまうんです。もうちょっと

と生徒を褒めてあげれば、もっと生徒を伸ばしてあげたのではないかと、反省を込めましてこういった言葉を先生方に投げかけております。ここに挙げませんでした私の考えでは成功の反対は失敗ではなくて何もしないことであると私は常に考えております。先生方も一生懸命にやってくれていますので、自分も何か出来ることはないだろうかと、1つは朝の打合せ、先生方が終わりましたらだいたい8時25分から8時35分までの間は生徒玄関に立って生徒とコミュニケーションというか挨拶をしています。昨年の春先あたり照れなのか全然挨拶をしてくれなかった子達も、半年ぐらいたら返ってくるようになるんですね。非常にこれが教師冥利につきるといふか有難く思っておりますし、前任校からスタートしたものなんですが、生徒との面談、3年生163名と校長室で1人20分程度だったと思うんですが、全員面談することが出来ました。そのきっかけは何かというと根室西高校で1年目の時に卒業間近の生徒が担任を通じて高校生活で1つだけ悔いが残っている。校長室に行って校長先生と話をすることが出来なかった、要するに校長室に入りたかったんですね。悪いことをしたらすぐに入ってこれるんですけど、なかなか校長室というのは敷居が高いのかこれなかったんですね。それが悔いが残っていると聞いたものですが、それじゃあいつでも来なさい、いろいろ話をしましょうというのがきっかけで、2年目から最低限3年生については全員会おうということで、今回も翔雲高校の163名といろいろな話をすることが出来ました。生徒から学ぶということも沢山あります。教員というのは生徒に育てられる部分と言うのは沢山あるというのは改めて実感を感じました。